

春が来た！
新しいことを
はじめよう！

府中市生涯学習センター

生涯学習 だより

第79号

2022年4月1日 発行

今号の内容は…

1. 府中再発見講座



2. 4～6月の講座ピックアップ



3. インタビュー 三浦明美さん



4. 西府界隈を訪ねてみた



市民ギャラリー



《今月の作品》

『けやき並木』
絵画サークル「基礎」
の提供作品から

生涯学習ボランティア「悠学の会」企画 「府中の魅力再発見講座」ご案内

この講座は、市民の皆さんに、府中の豊かな自然や古い歴史など、まちの魅力を知っていただくため、毎年企画されています。

今年のテーマは江戸時代の府中宿です。

「江戸名所府中宿紀行」

～旅の徒然と六所宮参詣～

会場：生涯学習センター／受講料：全2回 1,000 円

1. 6/21(火)14:00～16:00

「府中宿を訪れた人々」

講師：花木 知子 氏

(府中市郷土の森博物館・学芸員)

2. 6/28(火)14:00～16:00

「武蔵国総社六所宮参詣と伝統祭事の継承」

講師：猿渡 諒 氏 (大國魂神社・権禰宜)



府中宿を訪れた旅人たちのよもやま話、文人の残した紀行文や日記、長い伝統を誇る大國魂神社の由緒、伝統祭事など、府中宿のいきいきした姿をお伝えさせていただきます。

申込先：生涯学習センター (050-3491-9849)

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体



生涯学習センター 4月～6月の注目講座 ピックアップ

★おすすめの教養講座

新型コロナウイルスの拡大は未だに先行きが不透明ですが、3回目のワクチン接種をされた方も多くなりました。広い講堂で、ぜひ魅力ある講座を受講してみませんか。

落語ってこんなにおもしろい！

～真打の芸を堪能しよう～

講師：桂やまと（落語家/真打）

場所：2階講堂（定員 290 名）／受講料：全 2 回 2,500 円

1) 春の巻 4月13日（水）14:00～16:00

落語を楽しむために難しい予備知識は必要ありません！聴いているうち昔の風景にタイムスリッ



プできるのが落語の魅力です。

この講座では気軽な落とし噺をお聴きいただいてから、落語の豆知識、そして季節にまつわる噺を堪能していただきます。春の巻は「桜」にスポットを当てました。

2) 夏の巻 6月8日（水）14:00～16:00

この回では、春の巻でお話したものとは違った落語豆知識をお話しします。正座をして一人で人物を何人も演じ分け、笑いを存分に含んだストーリーを語るのは世界の舞台芸能の中で落語だけ。それだけに実は奥がとっても深いんです。

落語も二席お聴きいただけますが、そのうち一席は夏らしい噺をお届けいたします。

黒板アートとチェンバロの共演

～曲に合わせて黒板アートを描く美の世界～

講師：山下美季奈（チェンバロ）

すずきらな（黒板アート）

場所：2階講堂（定員 290 名）／受講料：全 2 回 2,500 円

1) 5月21日（土）14:00～16:00

バロックの名曲をチェンバロで美しく奏でている間にチョークで仕上げていく黒板アート。そこには何が描かれるのでしょうか。



2) 5月28日（土）14:00～16:00

誰もが聴いたことのある名曲と、震災で復興をテーマにした作品を数々仕上げた黒板アート作家・すずきらな の真骨頂をお見せします。



★特色ある生活・実技講座

乳幼児から高齢者まで全ての世代が学べる環境を、生涯学習センターは整えていますので、赤ちゃんづれのお母さんも学べます。誰でも学べるのが生涯学習です。

お母さんのための4歳～6歳児の英語講師：外国人講師、リトミック講師など

場所：1階保育室（定員 6 組・親子で参加）

受講料：全4回 5,000 円

1) 幼児英語教育の取り組み方について

6月7日（火）15:30～17:30

4歳児から6歳児の英語教育の取り組み方についてお伝えします。

2) 英語絵本体験会

6月14日（火）15:30～17:30

英語絵本を紹介しながら英語が自然に楽しく身につく英語絵本の読み聞かせを行います。

3) 英語リトミック体験会

6月21日（火）15:30～17:30

講師の伴奏に合わせて、体を使って英語と音楽を学びながら、感性豊かに自己表現する英語リトミックを体験します。



4) 英語レッスン体験会

6月28日（火）15:30～17:30

ゲームや音楽を通して楽しく英語に触れられる授業で、英語を大好きになってくれるような、楽しい英会話レッスンを行います。

はじめてのノルディックウォーキング

～健康的に歩くを考える～

講師：太田圭佑（中央大学スキー部コーチ）

場所：体育室ほか（定員 30 名）／受講料：全4回 8,500 円

ノルディックウォーキングってどんな運動なの？ ダイエットや肩こりに効果的と聞いたことがあるけど本当なの？

講義では、どのような運動効果が得られるか、また、正しい運動強度などについて解説します。普通歩行とポールを使った歩行の違いを実際に体感していただきます。また、ポールを使った準備体操をレクチャーします。



5月7日（土）14日（土）19日（木）26日（木）
各日とも 10:00～12:00

申込先：生涯学習センター 050-3491-9849

自然の魅力を伝え続けている 三浦明美さん(紅葉丘在住)

幼いころから自然が好きで、何事にも好奇心を持ち調べて歩いた。現在はブログ『あうるの森』で、知るを楽しみ、その知識を子供たちに伝えることを喜びとして科学イベントなどでも活躍している三浦さんに話を伺いました。



科学への興味を持つようになったのは

郊外の自然豊かな環境で育ったこと、また父も自然大好きということもあって、小さい頃から植物等に接していました。木の実を見れば次には葉への興味が湧き、葉を見れば幹へと、それぞれの成り立ちを科学的に学び知ることが楽しくなり、将来は植物学者になろうと思うくらいでした。



2000年ごろ府中市で日本科学協会による「体験学習指導者の養成」事業の研修に参加していました。その事業が基になって発足した「科学体験クラブ府中」のメンバーと

して活動している中で、子どもたちに科学を伝える面白さに目覚めました。

他にも色々なものに興味をお持ちのようですが

何でも突き詰めたいという性格なので、科学以外でもあらゆる分野に好奇心があります。

『あうるの森』というブログをやっているのですが、
<ブログ: <https://owlswoods.cocolog-nifty.com/>>
そのアイコン画像はフクロウのトンボ玉です。



フクロウもトンボ玉を作ることも大好きです。今日もお気に入りのトンボ玉を身に付けてきました。以前は機織りに興味が湧き、それを学びたくて山形に行き半年間機織りをしていました。

自然のコレクションでは貝殻ですね。海岸で拾ったものを、完全な形から、波で削られたものまで順に並べて観察すると、色々なことが分かって面白い。海で綺麗な貝殻を拾ったらブログにあげます。(1頁の画像参照)

貝殻拾いに通う間に漂着物にも興味を惹かれ、漂着物学会の会員にもなりました。年に一度ですが大学の先生、研究者、一般社会人等の話を聞くと、漂着物からも多くを学ぶことができるのだなと分かり、興味深いです。



ブログを通して伝えたいことは [ブログ『あうるの森』](#)

ブログで情報発信できるってスゴイな~って思います。一昔前の情報入手手段は、本・新聞・TV等でしたが、これらの情報発信元はその道の権威者でした。でもそこには貝殻拾いの楽しさ・驚き・発見など「初心者だから感じる事ができる」ことは書かれていません。でも、初心者が欲しい情報って、同じ初心者の体験や感想

なのでよね。そして、このくらいのレベルの情報は子どもたちの学びのレベルとも一致するようです。なので、ブログを通して科学イベントへの出展の依頼が来ることもあります。大和市の「おもしろ科学館」(年2回開催)にはもう5年ほど出展しています。

子どもたちにはどんなことを教えていますか

自然はその成長や変化の過程を見ることが、大きな学びになります。例えば「どんぐりの標本作製」。どんぐりと言っても様々な木があるので、実を拾って殻斗/かくと(帽子)の部分を見るとその種類がわかる。わかると面白くなる、楽しくなる。子どもの頃に体験することは将来につながるので、しっかり自分の言葉で説明し、伝えていきたいと思って活動しています。



興味を持つとすぐ行動というタイプなので

貝殻拾いは観光客のいない冬場が適しているので、最近、奄美大島や石垣島に行きました。ちょうど福徳岡ノ場の噴火で軽石が流れ着いていて、おもわず拾って来ました。これも貴重な経験です。

離島などに行くと、まだ知らない植物や生活などに好奇心がそそられ、本当に楽しいです。

何でも取り組んでしまうので、家の中は収集したものや作りかけのもので溢れかえっています。少し落ち着いて整理しなくてはと思うのですが(笑)。最近では身体がついて行かないこともありますね。

今のシニア世代や家から出ない若者に何か一言

何事に拘わらず好奇心をもって臨めば、多くの発見があります。一步外に出て、身近な自然に目を向けてみてはどうでしょうか。幸い府中には多くの公園もあります。リラックスしてストレス解消にも役立ち運動にもなります。新たな自分を発見する機会にもなると思いますので、散歩するつもりで、是非訪れてみてください。



(取材: 編集部/文: 小林清次郎・西谷信昭)

豊かな自然と住宅が共存する 西府界隈を訪ねてみた

春の兆しを求めて西府崖線から熊野神社を経て西府町農業公園まで散策してきました。懐かしい風景や新しい住宅・施設など、変わりつつある西府町界隈。みなさんも訪ねてみてはいかがでしょうか。

富士山の毅然とした姿に感動 <西府崖線上の道>

樹木や草花が寒さで身を縮める仲春晴天の日に、府中駅より西に位置する熊野神社古墳を目指して散策しました。西府町緑地の階段を登り、道は緑道へと続きます。辺りはのどかな山里集落といった感じで素朴な雰囲気があり、その奥に富士山が青い空と柔らかな白い雲との中で美しく毅然と佇んでいます。それは何処にでもある自然な日本の風景ですが、新鮮さと神聖さをあらためて感じさせてくれました。(柴田洋子)



日本人の持つ SDG s 精神 <西府崖線>

西府崖線の緑を楽しみながら下って行くと、そこにバイオネストがあった。自然の力を借りて落ち葉を分解するためのもので、日本人が昔から持っていた循環型の考え方だ。最近よく言われる SDG s も昔の人のもったいない精神と変わらないので

はと思いつきながら歩いていくと、シロダモの木が目についた。この木は葉の裏が黄色く、秋には黄色の小花と1年越しでやっと色づいた赤い実を同時に見られると説明文にある。植物界の変わり者だなあと笑ってしまった。

歩いていると目に映るものによって色々な思いが湧き上がってくる。味わいながら歩いていると、心も頭もスッキリして幸せを感じる。(山田詩子)



発見！梅にミノムシ <西府橋北公園>

農業公園に向かう途中の西府橋北公園に、白梅が2、3輪咲いていた。春の兆しを感じた。なんと驚いたことに、ミノムシがあちこちの枝にぶら下がっているではないか。

そこで、何十年ぶりに見かけたミノムシについて、少し調べた。ミノムシの寿命は1年。冬眠から覚め、羽化し、蛾となってミノから出るのはオスだけで、交尾後死ぬ。メスはミノから出ることなく産卵後死ぬ。成虫は口が退化して死ぬまで何も食べない。卵から孵化したミノムシは、自分が作ったミノの中で冬眠する。1年で一生を終るミノムシと人間の一生との間には、どれほどの違いがあるのだろうかと思ふと考へた。(中井博子)

《編集後記》

東京の冬の青空は明るく清澄で、心が晴れやかになります。この青空のもと、西府駅周辺には、100年、1000年前にどんな風景が広がっていたのでしょうか？

今、市街地にわずかに残された崖線の水と緑、再築造された河原石づくりの古墳、新しい農業公園…、大切にしていきたいものだと思います。(奥野英城)

熊野神社の珍しい古墳 <国史跡 武蔵府中熊野神社古墳>

この古墳は、熊野神社の境内の小山が古墳らしいとのことで、2003年に発掘・調査が行われ、三段築成の上円下方墳であることが確認され国史跡に認定された。全国的にも非常に希少な形の古墳で、最大・最古の上円下方墳とされている。展示館が併設されており古墳の詳細を知ることができる。

熊野神社の創建は、江戸時代初期と伝えられている。もとは今の第五小学校の東側あたりにあったが、安永6年(1770)に現在地に移されたという。



「熊野神社」の由来は南紀州の熊野本宮大社にある。熊野本宮大社は平安末期の後白河上皇が34回も御幸され、江戸時代には「蟻の熊野詣」と言われたほど詣でる人が多かったそうだ。熊野信仰を司った一族が共通の名字として鈴木氏を名乗り、熊野信仰の拡大とともに、神社と鈴木氏は全国に広がった。現在熊野神社は、府中を含め全国に4,776社あるそうだ。JR南武線西府駅から徒歩8分。ちょっと訪れてみてはいかがでしょうか。(鈴木禎治)

農業公園は防災公園 <西府町農業公園>

熊野神社から歩いて5分ほどの所に西府町農業公園があります。訪れた時には野菜はほとんどありませんでした。

職員さんから、公園のあちこちにあるベンチがコンロに変ったり、ビニールハウスに暖房が入るようになっていたり、防災設備が充実していることを聞き感心しました。いつどんな事が起きるかわからないこの頃、こうした施設があると安心できると思います。(井口文江)

